

SilkCentral Test Manager 2011 インストールヘルプ

Borland[®]
(A MICRO FOCUS COMPANY)

MICRO[®]
FOCUS

Micro Focus
575 Anton Blvd., Suite 510
Costa Mesa, CA 92626

Copyright © Micro Focus IP Development Limited 2011. All rights reserved.
SilkCentral Test Manager は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでい
ます, Copyright 2011 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited ま
たはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。


目次

はじめに	4
システム要件と事前要件	4
インストール パッケージの内容	6
Test Manager のライセンス管理	7
Test Manager ライセンス ポリシーを生成する	7
ホスト ID を調べる	7
SilkMeter のインストール	8
以前のバージョンの SilkMeter をアンインストールする	8
ライセンス サーバー上へ SilkMeter をインストールする	8
SilkMeter ライセンス サーバーの構成	9
ライセンス サーバーの構成を変更する	10
Test Manager をインストールする	11
Test Manager 実行可能ファイルをダウンロードする	11
TEMP 環境変数を再設定する	11
Test Manager をスタンドアロン環境にインストールする	11
分散環境に Test Manager をインストールする	14
Windows 実行サーバーをインストールする	18
サイレント モードで Windows 実行サーバーをインストールする	20
Linux 実行サーバーをインストールする	20
ログ ファイルを表示する	21
SilkCentral Test Manager 2011 へアップグレードする	21
Test Manager のメンテナンス	22
Test Manager のサイレント モード インストール	23
サイレント モードでインストールする	23
サイレント モードでアンインストールする	24
Upload Manager をインストールする	25
Upload Manager をインストールする	25
Manual Testing Client をインストールする	27
インストールの事前要件	27
Manual Testing Client をインストールする	27
Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 をインストールする	29
Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 をインストールする	29
Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 を設定する	30
SilkCentral データベースを設定する	31
リレーショナル データベース管理システムを選択する	31
データベース	31
データベース ユーザーの権限	32
SilkCentral データベースへ接続する	33
SilkCentral データベースから切断する	33
既存のデータベースへ接続する	33
SilkCentral 入門	34
Test Manager 入門	34
Issue Manager 入門	34
SilkCentral を管理する	34

はじめに

SilkCentral® Test Manager™ (Test Manager) は、強力で包括的なソフトウェア テスト管理ツールです。Test Manager を使用してユーザーのテストプロセスの品質および生産性を高めることにより、アプリケーション障害のリスクを低減しつつ、良好なソフトウェア プロジェクトをより迅速に提供できます。本製品は、あらゆる重要なソフトウェア テスト フェーズを、スケーラブルな Web ベースの単一テストシステム上に統合しています。これにより、ローカルそして各地に分散したソフトウェア開発チームは、経験やリソース、そして重要な情報を共有することができます。

このヘルプでは、Test Manager をインストール/アンインストールするために必要なすべての情報を提供します。ハードウェアやソフトウェアの各要件、さまざまなセットアップ オプションの詳細が記載されています。また、Test Manager を使用して、データベース アクセスを設定し、起動する手助けを行います。

 **注:** データベース管理システム (DBMS) にアクセスできない場合は、Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 をインストールすることができます。Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 は、評価目的のローカル テスト管理データベースとして使用することができます。Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 は、完全なデータベース サーバー インストールと比較して、機能が制限されているため、運用環境で使用することはできません。

システム要件と事前要件

サーバー システムの要件

アプリケーション、フロントエンド、実行、およびチャートの各サーバーは、特に記載がない場合、32 ビット オペレーティング システムの構成で検証されています。64 ビットの構成もサポートされますが、サービスが 32 ビット JVM に基づいているため、パフォーマンスは向上しません。

システム対象	要件
CPU	Pentium IV 以上、または x86 と互換性のある同等のプロセッサ
メモリ	最低 2 GB
空きディスク容量	最低 10 GB、データベース サーバーを除く
ネットワーク	100 Mbit。Manual Testing Client と実行サーバーは低帯域幅の接続で接続できます。
フロントエンド、アプリケーション、およびチャートの各サーバーのオペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none">Windows XP サービス パック 2 以降Windows XP 64 ビット サービス パック 1 (実行サーバー)Windows Server 2003 R2 サービス パック 2Windows Server 2008Windows Server 2008 R2 サービス パック 1 64 ビット
実行サーバーのオペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none">Windows XP サービス パック 2 以降Windows XP 64 ビット サービス パック 1 (実行サーバー)Windows Server 2003 R2 サービス パック 2

システム対象	要件
	<ul style="list-style-type: none"> Windows Vista Ultimate Edition 32 ビット Windows 7 32 ビット サービスパック 1 Windows 7 64 ビット サービスパック 1 Windows Server 2008 Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 64 ビット
Web サーバー	<ul style="list-style-type: none"> Tomcat IIS Apache、ロードバランサとして使用
データベース管理システム	<ul style="list-style-type: none"> Oracle 10g (バージョン 10.2.0.4) Oracle 11g (バージョン 11.2.0.1)
電源供給	停電時のリスクを減少するため、すべての環境に対する無停電電源装置 (UPS)



注: パフォーマンスを向上させるため、データベースシステムをスタンドアロンシステムとして別個にインストールすることをお勧めします。また、代わりに、MSDE/SQL Server を一定量のメモリのみ使用するように構成して、他のアプリケーションと最小限のリソース競合ですむようにする方法もあります。Test Manager をエンタープライズシステムとしてインストールするには、Test Manager の各サーバーを個別のマシン上にインストールします。これらサーバーには、アプリケーションサーバー、Web サーバー、チャートサーバー、実行サーバー、および、データベースシステムなどが含まれます。この方法については、『*SilkCentral Test Manager 2011* インストールヘルプ』の「カスタムインストール」に概要が記載されています。これらのコンポーネントは、好きな組み合わせで、複数のマシン上にインストールすることが可能です。

Test Manager の最適な構成の詳細については、テクニカルサポートに問い合わせてください。

実行サーバーの要件

実行サーバーに対する実際の要件と前提条件は、テスト対象のアプリケーション (AUT) やテストのタイプに依存します。

負荷テストについては、SilkPerformer の環境要件を参照してください。最小限の構成での負荷テストは、不正確な結果につながります。

機能テストについては、SilkTest の環境要件を参照してください。Web ブラウザのリプレイなど、集中的なテストについては、最小 1024 MB のメインメモリが推奨されます。

仮想化

Test Manager は仮想インフラストラクチャ環境 (たとえば、VMware ESX Server) での実行がテストされています。最適なパフォーマンスのためには、物理ハードウェアを使用することをお勧めします。

クライアント側のシステム要件

システム対象	要件
プロセッサ	Pentium IV 以上、または x86 と互換性のある同等のプロセッサ
メモリ	1 GB
空きディスク容量	1 GB

システム対象	要件
Web ブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> • Internet Explorer 8.x • Internet Explorer 9.x • Firefox 3.x • Firefox 4.x

インストール パッケージの内容

このトピックでは、インストール CD および Web パッケージに含まれているプログラムに関する概要を提供します。Test Manager を完全インストールするためには、それらのプログラムが必要となります。ユーザーは、**Setup** ウィザードを使用して、足りないプログラムをインストールすることができます。コンポーネントを個別にインストールするには、以下で指定された場所から EXE ファイルを実行します。

プログラム ロケーション

Silk Meter SilkMeter を、次のフォルダからインストールします。

¥SilkMeter¥silkmeter.exe




注: SilkMeter は、インストール CD からのみインストールできます。Web パッケージには含まれていません。

¥SilkMeter フォルダには、お使いのコンピュータに関する情報を取得するのを支援するプログラムも含まれています。この情報は、Micro Focus ライセンスを取得するためにお客様が SilkMeter にお問い合わせいただく際に必要となります

Test Manager のライセンス管理

このセクションでは、Test Manager のライセンス ポリシーの取得方法と、SilkMeter のインストール方法について説明します。SilkMeter をインストールするには、管理者権限を持っている必要があります。

 **注:** Test Manager には、SilkMeter バージョン 2008 以降と Test Manager ライセンス ポリシーが必要です。

SilkMeter のインストールは、ライセンス サーバー 1 つにつき 1 回です。複数のライセンス サーバーを持っている場合には、複数のライセンス ポリシー ファイルが必要となります。各ファイルは、それぞれ特定のライセンス サーバーに関連付けられています。1 つの SilkMeter ライセンス サーバーが、複数の製品のためのライセンス ポリシーを処理することができます。

Test Manager ライセンス ポリシーを既にお受け取りの場合には、そのライセンス ポリシーをライセンス サーバー上へインストールしてください。ライセンス ポリシーをまだ受け取っていない場合には、ライセンス ポリシーを生成します。

Test Manager ライセンス ポリシーを生成する

Test Manager を実行するには、ライセンス ポリシーが必要となります。ユーザーは、Online License Generator を使用して、ライセンス ポリシーを生成することができます。Online License Generator には、Firefox や Internet Explorer など、SSL 対応ブラウザが必要となります。

1. <http://sso.borland.com/download/> へアクセスし、電子メールで受け取った **ログイン ID** と **パスワード** でログインしたら、**go** をクリックします。
アクセス コードをお持ちでない場合、またはアクセス コードをお忘れの場合は、<http://support.microfocus.com> よりカスタマー ケアにお問い合わせください。
2. **Product Download Center** ページで、**Silk** をクリックします。
3. 製品リストから、注文した Test Manager のバージョンを選択します。
4. **License Keys** タブを選択します。
5. ライセンスを生成するには、希望する項目のオプション ボタンをクリックし、そのページの一番下にある **Generate** をクリックします。
6. ライセンス サーバーとして使用するコンピュータの **host ID** を入力し、**Generate** を再びクリックします。
View Licenses ページが開きます。
7. **License Overview** をクリックし、自分のライセンス キーを確認します。
8. **Download** をクリックして、Test Manager ライセンス ポリシーを受け取り、そのファイルをローカルドライブに保存します。
9. SilkMeter を、Test Manager ライセンス ポリシーと共に、ライセンス サーバー コンピュータ上にインストールします。

ホスト ID を調べる

1. ライセンス サーバー上でコマンド プロンプトを開き、コマンド `ipconfig/all` を入力します。
ライセンス サーバーが、接続アドレスを一覧表示します。
2. ホスト ID (お使いの LAN カードの MAC アドレス または 物理アドレス) を確認してください (例: 00-BF-00-1C-D3-3D)。

Test Manager のためのライセンス ポリシーを取得するには、この情報を入力する必要があります。



ヒント: システムの設定によっては (仮想マシンや VPN 接続を含む)、複数の MAC アドレスをお持ちの場合もあります。実際の LAN カードのホスト ID であることを確認してください。

SilkMeter のインストール

Test Manager ライセンス ポリシーをお持ちの場合には、SilkMeter をインストールする際に、そのポリシーをインストールすることができます。Test Manager ライセンス ポリシーを取得するには、Online License Generator にアクセスして、ライセンス ポリシーを生成します。

Test Manager ライセンス ポリシーは、SilkMeter をライセンス サーバー上にインストールする時点で、必須というわけではありません。SilkMeter の **User Policy Administrator** を使用して、Test Manager ライセンス ポリシーを後からインポートすることも可能です。ただし、ライセンス ポリシーは Test Manager を実行する前にインポートする必要があります。

SilkMeter のインストールは、ライセンス サーバー 1 つにつき 1 回です。複数のライセンス サーバーを持っている場合には、複数のライセンス ポリシー ファイルが必要となります。各ファイルは、それぞれ特定のライセンス サーバーに関連付けられています。1 つの SilkMeter ライセンス サーバーが、複数の製品のためのライセンス ポリシーを処理することができます。

SilkMeter ライセンス サーバーの要件

SilkMeter をインストールする前に、リリース ノートでライセンス サーバーが要件を満たしていることを確認してください。

以前のバージョンの SilkMeter をアンインストールする

SilkMeter が既にライセンス サーバー上にインストールされている場合には、最新バージョンの SilkMeter をインストールする前に、それをアンインストールしなければなりません。

1. **スタート > すべてのプログラム > Silk > SilkMeter > Uninstall** を選択します。
2. **Yes** をクリックして、SilkMeter をアンインストールします。
Remove Settings ダイアログ ボックスが開きます。
3. **No** をクリックした場合には、SilkMeter の設定が保持されます。



注目: 現在、SilkMeter ライセンス サーバー上に存在するライセンス ポリシーを維持するには、**No** をクリックしなければなりません。

4. コンピュータを再起動します。

SilkMeter はアンインストールされ、これで、最新バージョンの SilkMeter をインストールする準備ができました。

ライセンス サーバー上へ SilkMeter をインストールする

SilkMeter をインストールする前に、次の情報を確認します。

- お使いのユーザー アカウントが管理者権限を持っていること。
 - SilkMeter のインスタンスが、ライセンス サーバー上にインストールされていないこと。
1. SilkMeter 実行可能ファイル SilkMeter.exe を探し、以下に従い、順次ステップを実行していきます。
 - Test Manager CD をお持ちの場合、CD を挿入します。 セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート > ファイル名を指定して実行...** を選択し、<cddrive>:¥SilkMeter ¥SilkMeter.exe を入力して、SilkMeter セットアップ プログラムを手動で開始します。
 - ダウンロードした SilkMeter をお持ちの場合、次のステップを実行します。
 1. EXE ファイルが保存された場所まで移動します。
 2. EXE ファイルをダブルクリックします。

- SilkMeter をダウンロードする場合、次のステップを実行します。
 1. <http://www.borland.com/downloads/servers/silkmeter/index.html> にアクセスします。
 2. **SilkMeter 2008** をクリックし、続いて、**保存** をクリックします。
 3. このファイルを保存する場所を指定して、**保存** をクリックします。
代替方法：ブラウザから EXE ファイルをダブルクリックして、ファイルを実行します。
 4. EXE ファイルが保存された場所まで移動します。
 5. EXE ファイルをダブルクリックします。

InstallShield ウィザードが開きます。

2. **Next** をクリックし、続行します。
セットアップが、ファイルを一時ディレクトリに抽出します。
3. **Next** をクリックし、続行します。
License Agreement が開きます。
4. 使用権の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**Yes** をクリックし、続行します。
Enter Installation Path and Configuration Directory for SilkMeter Runtime ページが開きます。
5. **Next** をクリックすると、SilkMeter をデフォルト ディレクトリにインストールし、デフォルト設定フォルダ %cfg を使用します。
Enter Host Name ページが開きます。
6. Hostname と Port を入力または確認し、**Next** をクリックします。



注: ここでのホスト名は、SilkMeter がインストールされるコンピュータの名前です。

Select Program Folder ページが開きます。

7. **Program Folders** テキスト ボックスで、デフォルト プログラム フォルダである Silk\SilkMeter をそのまま利用するか、別のプログラム フォルダを指定し、**Next** をクリックして続行します。
セットアップが、SilkMeter をインストールします。完了すると、**Install SilkMeter Policy** ページが開きます。
8. 次の手順の 1 つを実行します。
 - Test Manager ライセンス ポリシーを既にお持ちの場合、**[...]** をクリックして、Test Manager ライセンス ポリシー ファイル license.pol を保存した場所までたどっていき、**Open** をクリックします。**Finish** をクリックし、Test Manager ライセンス ポリシーをインストールします。
 - Test Manager ライセンス ポリシーをまだ持っていない場合は、**Finish** をクリックします。Test Manager ライセンス ポリシーは、後で受け取った際にインポートすることができます。Test Manager ライセンス ファイルをインポートするための手順については、Online License Generator や SilkMeter Runtime のヘルプから確認することができます。

View Release Notes ページが開きます。

9. **Yes** をクリックして SilkMeter リリース ノートを表示するか、**No** をクリックしてリリース ノートを表示せずにインストールを続行します。
InstallShield Wizard Complete ページが開きます。
- 10 **Finish** をクリックしてインストール プロセスを完了させます。




重要: セットアップによって、コンピュータを再起動するようプロンプトが表示された場合には、必ず行うようにしてください。

SilkMeter ライセンス サーバーの構成

Test Manager のいずれのバージョンを実行する場合にも、SilkMeter をネットワーク内にあるコンピュータ上にインストールし、構成しなければなりません。

Test Manager と SilkMeter の間の通信プロセスは、次のファイルおよび変数によって設定されています。

- `SILK_CONFIG_PATH` 環境変数
- `CosLicensingService.ref` ファイル
- `CosPropertyService.ref` ファイル
- `ls_segue.ref` ファイル
- `silkmeter.cfg` ファイル


 **重要:** これらのファイルは削除しないでください。

Test Manager セットアップ プログラムが、**Select SilkMeter License Server** ユーティリティのテキスト ボックスに入力された値を基に、これらのオブジェクトを作成します。

ライセンス サーバーの構成を変更する

Select SilkMeter License Server ユーティリティを使用して、ライセンス サーバーの構成を変更または修復します。このユーティリティは、Test Manager のインストール時に一緒にインストールされ、ローカル システム内に SilkMeter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つければ、ライセンス サーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合には、**Select SilkMeter License Server** ダイアログ ボックスにデフォルトの設定が表示されます。

1. **スタート > すべてのプログラム > Silk > SilkCentral > Administration Tools > Change your License Server Configuration** を選択します。
Select SilkMeter License Server ユーティリティが開きます。
2. **Application** リスト ボックスで、ライセンス サーバーを設定する製品を選択します。
3. **Using local or remote server** オプション ボタンをクリックして、SilkMeter ライセンス サーバーを設定します。
4. **License Server Host** テキスト ボックスに、SilkMeter ライセンス サーバーのコンピュータ名を入力します。
ネットワーク管理者が別のポートを定義したのでない限り、**Port Number** は変更しないでください。
5. **Apply** をクリックして、ライセンス サーバーの構成を生成します。
6. **Test connection** をクリックして、指定したホスト、ポート上で SilkMeter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。
接続が成功した場合には、**Status** テキスト ボックスに SUCCESS メッセージが表示されます。

 **注:** 場合により、**License Server Host** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を `licenseserver` など単純な名前指定すると、動作しない場合があります。 `there is no license server running on the hostname you specified` (指定されたホスト名上にはライセンス サーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、`licenseserver.mycompany.com` など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

7. **Close** をクリックして、ライセンス サーバーの構成を完了させます。

Test Manager をインストールする

このセクションでは、Test Manager をインストールする際に指定することのできるセットアップ オプションについて説明します。

セットアップ内容は、作成したいアプリケーション環境や利用することのできるリソースによって変わってきます。

Test Manager のインストール CD やセットアップ プログラムでは、すべての Test Manager ソフトウェア コンポーネントを、単一のコンピュータ上にインストールしたり、各コンポーネントをそれぞれ別のコンピュータ上にインストールしたりすることができます。

Test Manager をインストールするには、お使いのコンピュータ システムが最小要件を満たしている必要があります。インストール プログラムは、システムを検査して、必要なソフトウェアをオプションでインストールします。

Test Manager 実行可能ファイルをダウンロードする

インストール CD を持っていない場合には、Test Manager 実行可能ファイルをダウンロードします。

1. <http://sso.borland.com> にアクセスします。
2. **Username** および **Password** テキスト ボックスに、顧客 ID およびパスワードを入力します。
3. **go** をクリックし、インストールする Test Manager のバージョンを選択します。
4. **SCTestManager2010R2.exe** をクリックし、**保存** をクリックします。
5. このファイルを保存する場所を指定して、**保存** をクリックします。

代替方法：ブラウザから EXE ファイルをダブルクリックして、ファイルを実行します。

実行可能ファイルを使用して、Test Manager をインストールします。

TEMP 環境変数を再設定する

Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。Test Manager を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

1. **スタート > 設定 > コントロール パネル** を選択します。
2. **システム** をダブルクリックします。
3. **詳細設定** タブを選択し、**環境変数...** をクリックします。
4. **ユーザー環境変数** または **システム環境変数** の下の *TEMP* 変数をダブルクリックします。
5. 有効なディレクトリを入力して、**OK** をクリックします。
6. EXE ファイルをダブルクリックして、Test Manager のインストールを再び開始します。

Test Manager をスタンドアロン環境にインストールする

作業を開始する前に、Test Manager の実行可能ファイルをダウンロードするか、Test Manager の CD を CD ドライブに挿入します。


標準インストール オプションを使用して、スタンドアロン インストールのセットアップを行います。この場合、すべての機能が単一のマシン上にインストールされます。

 **注:** スタンドアロン インストールでは、Test Manager の完全なパフォーマンスは実現されません。このインストール タイプは、デモンストレーション用途のみに使用してください。

1. Test Manager の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

Test Manager の CD をお持ちの場合、CD を挿入します。セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート > ファイル名を指定して実行...** を選択し、<cddrive>:%setup.exe を入力して、Test Manager セットアップ プログラムを手動で開始します。

Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 と Windows インストーラ 4.5 がコンピュータにインストールされていない場合、Windows インストーラ 4.5 を今すぐインストールするかどうかを尋ねるダイアログ ボックスが表示されます。評価目的で Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 をインストールする場合は、**はい** をクリックして Windows インストーラ 4.5 のインストールを確認します。Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 をインストールするには、コンピュータを再起動する必要があります。再起動してよいか確認を求めるダイアログ ボックスで、**はい、コンピュータを今すぐ再起動します。** を選択し、**OK** をクリックします。再起動後に Test Manager のセットアップが続行されます。

 **注:** Windows の TEMP 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。Test Manager を正常にインストールするには、TEMP 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

InstallShield ウィザードが開きます。

2. インストール完了時に、インストール ファイルを削除するかどうかを選択し、**Next** をクリックします。


セットアップをあとからまた実行する予定がない場合には、ファイルを、インストール完了後に自動的に削除される一時保管場所に展開することも可能です。

インストールに必要なファイルを、Test Manager が抽出、準備、およびインストールします。

ソフトウェア要件が満たされていなかった場合、**Setup Launcher** ページが開きます。**Setup Launcher** ページが開いた場合に以降のステップを行います。**Welcome** ページが開いた場合には、次のステップはとばしてください。

3. **Setup Launcher** は、お使いのコンピュータが、インストールの事前要件を満たしているかどうかを確認し、オプションのコンポーネントが存在するかどうかを検出します。

Test Manager に必須のコンポーネントが、インストールのために重要な順に表示されます。**Setup Launcher** で **Install** ボタンが有効になっているのは、マシン上に見つからなかった要件があることを示しています。これらは、Test Manager のインストールを進める前にインストールする必要があります。お使いのコンピュータがすべての要件を満たさないかぎり、インストールを続行することはできません。

 **注:** SilkMeter ライセンス サーバーが必要になるのは、ライセンス サーバーをインストールする場合のみです。このオプションが利用可能になっていなくても、インストールに特に問題はありません。

欠けているコンポーネントをインストールするため、以下のステップを実行します。

a) 現在インストールされていない、必要なコンポーネントそれぞれに対して、**Install** をクリックします。

必要なコンポーネントをインストールした後、それぞれコンピュータの再起動が必要な場合もあります。コンピュータの再起動後、セットアップ プログラムを再度立ち上げます。

すべての要件を満たしたら、**Continue** ボタンが有効になります。

b) **Continue** をクリックすると、Test Manager のインストールが始まります。

InstallShield Wizard のガイドに従い、セットアップ手順を進めます。このセットアップではいつでも、**Back** をクリックすれば前のステップに戻り、**Cancel** をクリックすればインストールのプロセスを終了できます。

Welcome ページが表示されます。

4. 使用する言語を選択し、**Next** をクリックします。

License Agreement が開きます。

5. 使用権の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**Yes** をクリックします。**Setup Type** ページが開きます。

6. **SilkCentral Test Manager 2010R2 Standard Installation** オプション ボタンをクリックして、スタンドアロン Test Manager 環境をインストールします。

デフォルトのインストール先は **Setup Type** ページの **Destination path** セクションに表示されます。デフォルトのインストールディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します。

a) **Browse** をクリックします。

Choose Folder ダイアログ ボックスが開きます。

b) Test Manager をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **Setup Type** ページに戻ります。



注: Test Manager は、ローカル ドライブにインストールしなければなりません。無効なインストール先を指定した場合には、エラー メッセージが表示されます。

7. **Next** をクリックし、続行します。

Installation Options Summary ページに、選択した設定内容が一覧表示されます。

8. 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います。

- 設定を変更するには、**Back** をクリックして、該当するページに戻ります。
- 必要な設定をし終えたら、**Next** をクリックして、インストール処理を開始します。

Setup Status ページの進捗バーにより、インストール処理の状況がわかります。完了すると、**Select licensing mode** ページが開きます。

9. 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

- **Evaluation version** - Test Manager の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 30 日間使用できます。使用は、2 Test Manager ユーザーと 2 Issue Manager ユーザーに制限されています。後から、製品版へのアップグレードをご希望の場合には、営業担当までお問い合わせください。**Install Microsoft SQL Server 2008 Express SP1** (Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 のインストール) チェック ボックスをオンにすると、Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 が追加インストールされます。
- **Licensed version** - ライセンスが必要な Test Manager の無制限版をインストールします。

10 **Next** をクリックします。

インストールにおいて選択したコンポーネントに応じて Test Manager 2011 Licensing ページが開く場合があります。ライセンス管理を必要とするコンポーネントをインストールしておらず、このページも開かない場合には、次のステップに進んでください。

ライセンス ファイルをインストールするには、次のステップを実行します：

a) **OK** をクリックし、ライセンス ファイルの場所を指定します。

このライセンス ユーティリティは、ローカル システム内に、SilkMeter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうか確認します。ファイルが見つければ、ライセンス サーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**Select SilkMeter License Server** ページがデフォルトの設定と共に表示されます。

このページでは、SilkMeter ライセンス管理についての一般的な情報を提供しています。SilkMeter ライセンス管理の詳細については、**Open SilkMeter ReadMe** をクリックします。これにより、デフォルトブラウザで SilkMeter ドキュメントが開きます。



注: ドキュメントがインストール ソース ディレクトリで利用できない場合は、**Open SilkMeter ReadMe** ボタンは利用できなくなっています。このドキュメントは、一般に、Test Manager Web パッケージをインストールしている場合は利用できなくなっています。


b) **Application** リスト ボックスで、ライセンス管理を行うアプリケーションとして、**SilkCentral** を選択します。

c) 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

Using local or remote server

License Server Host テキスト ボックスに、SilkMeter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。ネットワーク管理者が別のポート

を定義したのではない限り、デフォルトポート番号 5461 は変更しないでください。**Apply** をクリックして、ライセンスサーバーの構成を生成します。**Test connection** をクリックして、指定したホスト、ポート上で SilkMeter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンスサーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システムライブラリが、あとからソフトウェアパッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるからです。


 **注:** 場合により、**License Server Host** テキストボックスに、ライセンスサーバーの名前を licenseserver など単純な名前指定すると、動作しない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンスサーバーが実行されていません) というメッセージボックスが開きます。この問題を解決するには、licenseserver.mycompany.com など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

Not using server (standalone)

SilkMeter をスタンドアロンで実行します。SilkMeter のライセンスファイルをインポートするようプロンプトが表示されます。**Yes** をクリックし、ライセンスファイルの場所を指定します。

d) **Close** をクリックして、InstallShield ウィザードに戻ります。

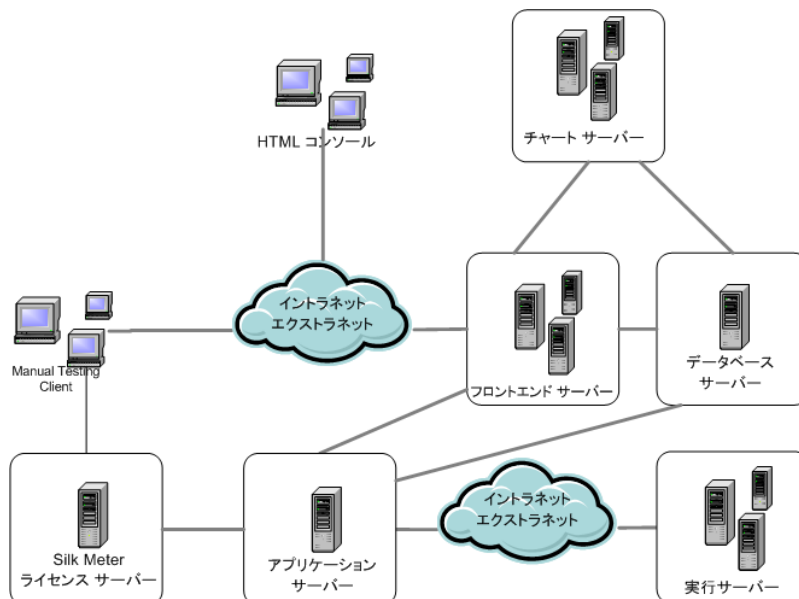
11 Finish をクリックしてインストールを完了させます。

 **注:** InstallShield ウィザードがインストール時にファイルの更新に失敗した場合 (例、システムライブラリが Windows によってロックされていた場合)、またはそれ以外の理由で InstallShield ウィザードがシステムを再起動する必要があることを検出した場合、コンピュータを再起動するようにプロンプトが表示されます。この場合、コンピュータを再起動しないと、Test Manager へのアクセスに問題が発生する可能性があります。

分散環境に Test Manager をインストールする

作業を開始する前に、Test Manager の実行可能ファイルをダウンロードするか、Test Manager の CD を CD ドライブに挿入します。


カスタム インストール セットアップを使用すると、Test Manager のインストールを自在に制御できます。分散環境をセットアップする予定の場合には、このオプションを使用してください (以下の図参照)。



1. Test Manager の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

Test Manager の CD をお持ちの場合、CD を挿入します。セットアッププログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート > ファイル名を指定して実行...** を選択し、<cd drive>:%setup.exe を入力して、Test Manager セットアッププログラムを手動で開始します。

Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 と Windows インストーラ 4.5 がコンピュータにインストールされていない場合、Windows インストーラ 4.5 を今すぐインストールするかどうかを尋ねるダイアログ ボックスが表示されます。評価目的で Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 をインストールする場合は、**はい** をクリックして Windows インストーラ 4.5 のインストールを確認します。Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 をインストールするには、コンピュータを再起動する必要があります。再起動してよいか確認を求めるダイアログ ボックスで、**はい、コンピュータを今すぐ再起動します。** を選択し、**OK** をクリックします。再起動後に Test Manager のセットアップが実行されます。

 **注:** Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。Test Manager を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

InstallShield ウィザードが開きます。

2. インストール完了時に、インストール ファイルを削除するかどうかを選択し、**Next** をクリックします。


セットアップをあとからまた実行する予定がない場合には、ファイルを、インストール完了後に自動的に削除される一時保管場所に展開することも可能です。

インストールに必要なファイルを、Test Manager が抽出、準備、およびインストールします。

ソフトウェア要件が満たされていなかった場合、**Setup Launcher** ページが開きます。**Setup Launcher** ページが開いた場合に以降のステップを行います。**Welcome** ページが開いた場合には、次のステップはとばしてください。

3. **Setup Launcher** は、お使いのコンピュータが、インストールの事前要件を満たしているかどうかを確認し、オプションのコンポーネントが存在するかどうかを検出します。

Test Manager に必須のコンポーネントが、インストールのために重要な順に表示されます。**Setup Launcher** で **Install** ボタンが有効になっているのは、マシン上に見つからなかった要件があることを示しています。これらは、Test Manager のインストールを進める前にインストールする必要があります。お使いのコンピュータがすべての要件を満たさないかぎり、インストールを続行することはできません。

 **注:** SilkMeter ライセンス サーバーが必要になるのは、ライセンス サーバーをインストールする場合のみです。このオプションが利用可能になっていなくても、インストールに特に問題はありません。

欠けているコンポーネントをインストールするため、以下のステップを実行します。

- a) 現在インストールされていない、必要なコンポーネントそれぞれに対して、**Install** をクリックします。

必要なコンポーネントをインストールした後、それぞれコンピュータの再起動が必要な場合もあります。コンピュータの再起動後、セットアッププログラムを再度立ち上げます。

すべての要件を満たしたら、**Continue** ボタンが有効になります。

- b) **Continue** をクリックすると、Test Manager のインストールが始まります。

InstallShield Wizard のガイドに従い、セットアップ手順を進めます。このセットアップではいつでも、**Back** をクリックすれば前のステップに戻り、**Cancel** をクリックすればインストールのプロセスを終了できます。

Welcome ページが表示されます。

4. 使用する言語を選択し、**Next** をクリックします。

License Agreement が開きます。

5. 使用権の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**Yes** をクリックします。**Setup Type** ページが開きます。


6. **SilkCentral Test Manager 2011 Custom Installation** オプション ボタンをクリックして、分散 Test Manager 環境をインストールします。

デフォルトのインストール先は **Setup Type** ページの **Destination path** セクションに表示されます。デフォルトのインストールディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します。

a) **Browse** をクリックします。

Choose Folder ダイアログ ボックスが開きます。


b) **Test Manager** をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **Setup Type** ページに戻ります。

 **注:** **Test Manager** は、ローカル ドライブにインストールしなければなりません。無効なインストール先を指定した場合には、エラー メッセージが表示されます。

7. **Next** をクリックします。

Select Features ページに、デフォルトの設定が一覧されます。カスタム インストール セットアップでは、デフォルトにより **Test Manager** パッケージに入っているすべてのコンポーネントがインストールされます。


8. 分散環境をセットアップするには、現在のコンピュータ上にインストールするコンポーネントのチェックボックスにチェックを付けていきます。


 **注:** **Test Manager** は、次のコンポーネントがすべて正しくインストールされている場合にのみ、適切に機能します。


- **SilkCentral Web Server** をインストールするには、**SilkCentral Web Server** チェックボックスにチェックを付けます。

Microsoft Internet Information Services (IIS) バージョン 5.0 以降がシステム上にインストールされている場合、これがデフォルトの Web サーバーとして選択され、Internet Server Application Program Interface (ISAPI) フィルタが、URL 解析を行うためにインストールされます。**SilkCentral IIS** が検知されなかった場合、このオプションは有効にならず、**SilkCentral Tomcat Web Server** がデフォルトで選択されます。IIS 7 を **Test Manager Web サーバー** として使用するには、次の機能を標準インストールでインストールする必要があります。


- CGI
- ISAPI Extensions
- ISAPI Filters

 **注:** Web ベース製品は、サーバーと共にインストールする必要があります。**製品** セクションの下で **Test Manager** オプションを選択して **Test Manager** をインストールするか、**製品** セクションで **Issue Manager** オプションを選択して **SilkCentral Issue Manager (Issue Manager)** をインストールします。


 **重要:** Web サーバーのオプションは 1 つだけ選択してください。Web サーバーのタイプを 1 つ以上選択すると、**InstallShield Wizard** はエラー メッセージを表示します。

 **ヒント:** フロントエンド サーバーは、アプリケーション サーバーと同じ LAN 内に配置されていなければなりません。さもなければ、アプリケーション システム上の内部ネットワークトラフィックが遅くなります。

- **Test Manager** をインストールするには、**Test Manager** チェックボックスにチェックを付けます。
- **Issue Manager** をインストールするには、**Issue Manager** チェックボックスにチェックを付けます。

 **注:** **Issue Manager Web ユーザー インターフェイス** は、**SilkCentral Web サーバー** をインストールしたコンピュータ上にインストールする必要があります。

- **SilkCentral アプリケーション サーバー** をインストールするには、**SilkCentral Application Server** チェックボックスにチェックを付けます。

 **注:** Web ベース製品は、サーバーと共にインストールする必要があります。**製品** セクションの下で **Test Manager** オプションを選択して **Test Manager** をインストールするか、**製品** セクションで **Issue Manager** オプションを選択して **SilkCentral Issue Manager (Issue Manager)** をインストールします。

- SilkCentral 実行サーバーをインストールするには、**SilkCentral Execution Server** チェックボックスにチェックを付けます。
- SilkCentral チャートサーバーをインストールするには、**SilkCentral Chart Server** チェックボックスにチェックを付けます。



ヒント: チャートサーバーは、レポート出力のリクエストを処理する際に大量のメモリを消費するため、個別のコンピュータ上にインストールしてください。

9. **Next** をクリックし、続行します。

Installation Options Summary ページに、選択した設定内容が一覧表示されます。

10 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います。

- 設定を変更するには、**Back** をクリックして、該当するページに戻ります。
- 必要な設定をし終わったら、**Next** をクリックして、インストール処理を開始します。

Setup Status ページの進捗バーにより、インストール処理の状況がわかります。完了すると、**Select licensing mode** ページが開きます。

11 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

- **Evaluation version** - Test Manager の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 30 日間使用できます。使用は、2 Test Manager ユーザーと 2 Issue Manager ユーザーに制限されています。後から、製品版へのアップグレードをご希望の場合には、営業担当までお問い合わせください。**Install Microsoft SQL Server 2008 Express SP1** (Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 のインストール) チェックボックスをオンにすると、Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 が追加インストールされます。
- **Licensed version** - ライセンスが必要な Test Manager の無制限版をインストールします。

12 **Next** をクリックします。

インストールにおいて選択したコンポーネントに応じて Test Manager 2011 Licensing ページが開く場合があります。ライセンス管理を必要とするコンポーネントをインストールしておらず、このページも開かない場合には、次のステップに進んでください。

ライセンス ファイルをインストールするには、次のステップを実行します：

a) **OK** をクリックし、ライセンス ファイルの場所を指定します。

このライセンス ユーティリティは、ローカル システム内に、SilkMeter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうか確認します。ファイルが見つければ、ライセンス サーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**Select SilkMeter License Server** ページがデフォルトの設定と共に表示されます。

このページでは、SilkMeter ライセンス管理についての一般的な情報を提供しています。SilkMeter ライセンス管理の詳細については、**Open SilkMeter ReadMe** をクリックします。これにより、デフォルトブラウザで SilkMeter ドキュメントが開きます。




注: ドキュメントがインストール ソース ディレクトリで利用できない場合は、**Open SilkMeter ReadMe** ボタンは利用できなくなっています。このドキュメントは、一般に、Test Manager Web パッケージをインストールしている場合は利用できなくなっています。

b) **Application** リスト ボックスで、ライセンス管理を行うアプリケーションとして、**SilkCentral** を選択します。

c) 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

Using local or remote server


License Server Host テキスト ボックスに、SilkMeter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではない限り、デフォルト ポート番号 5461 は変更しないでください。**Apply** をクリックして、ライセンス サーバーの構成を生成します。**Test connection** をクリックして、指定したホスト、ポート上で SilkMeter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェア パッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるからです。

 **注:** 場合により、**License Server Host** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を licenseserver など単純な名前指定すると、動作しない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンス サーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、licenseserver.mycompany.com など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

Not using server (standalone) SilkMeter をスタンドアロンで実行します。SilkMeter のライセンス ファイルをインポートするようプロンプトが表示されます。**Yes** をクリックし、ライセンス ファイルの場所を指定します。

d) **Close** をクリックして、InstallShield ウィザードに戻ります。

13 Finish をクリックしてインストールを完了させます。


 **注:** InstallShield ウィザードがインストール時にファイルの更新に失敗した場合 (例、システム ライブラリが Windows によってロックされていた場合)、またはそれ以外の理由で InstallShield ウィザードがシステムを再起動する必要があることを検出した場合、コンピュータを再起動するようにプロンプトが表示されます。この場合、コンピュータを再起動しないと、Test Manager へのアクセスに問題が発生する可能性があります。

14 前述のステップを、分散環境に加えたい他のコンピュータに対して繰り返します。

Windows 実行サーバーをインストールする


作業を開始する前に、Test Manager の実行可能ファイルをダウンロードするか、Test Manager の CD を CD ドライブに挿入します。

リモート SilkCentral 実行サーバーとして使用する POP (Point of Presence) それぞれに実行サーバーをインストールします。実行サーバーは、Test Manager テストをリモート コンピュータ上で実行します。

 **注:** Test Manager Windows 実行サーバーのインストーラは、ダウンロードすることができます。ヘルプ > ツール を選択します。

1. Test Manager の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

Test Manager の CD をお持ちの場合、CD を挿入します。セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート > ファイル名を指定して実行...** を選択し、<cddrive>:%setup.exe を入力して、Test Manager セットアップ プログラムを手動で開始します。

 **注:** Windows の TEMP 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。Test Manager を正常にインストールするには、TEMP 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

InstallShield ウィザードが開きます。

2. インストール完了時に、インストール ファイルを削除するかどうかを選択し、**Next** をクリックします。

セットアップをあとからまた実行する予定がない場合には、ファイルを、インストール完了後に自動的に削除される一時保管場所に展開することも可能です。


インストールに必要なファイルを、Test Manager が抽出、準備、およびインストールします。

ソフトウェア要件が満たされていなかった場合、**Setup Launcher** ページが開きます。**Setup Launcher** ページが開いた場合に以降のステップを行います。**Welcome** ページが開いた場合には、次のステップはとばしてください。

3. Setup Launcher は、お使いのコンピュータが、インストールの事前要件を満たしているかどうか確認し、オプションのコンポーネントが存在するかどうかを検出します。

Test Manager に必須のコンポーネントが、インストールのために重要な順に表示されます。**Setup Launcher** で **Install** ボタンが有効になっているのは、マシン上に見つからなかった要件があることを

示しています。これらは、Test Manager のインストールを進める前にインストールする必要があります。お使いのコンピュータがすべての要件を満たさないかぎり、インストールを続行することはできません。

 **注:** SilkMeter ライセンス サーバーが必要になるのは、ライセンス サーバーをインストールする場合のみです。このオプションが利用可能になっていなくても、インストールに特に問題はありませ

欠けているコンポーネントをインストールするため、以下のステップを実行します。

a) 現在インストールされていない、必要なコンポーネントそれぞれに対して、**Install** をクリックします。

必要なコンポーネントをインストールした後、それぞれコンピュータの再起動が必要な場合もあります。コンピュータの再起動後、セットアップ プログラムを再度立ち上げます。

すべての要件を満たしたら、**Continue** ボタンが有効になります。

b) **Continue** をクリックすると、Test Manager のインストールが始まります。

InstallShield Wizard のガイドに従い、セットアップ手順を進めます。このセットアップではいつでも、**Back** をクリックすれば前のステップに戻り、**Cancel** をクリックすればインストールのプロセスを終了できます。

Welcome ページが表示されます。

4. 使用する言語を選択し、**Next** をクリックします。

License Agreement が開きます。

5. 使用権の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**Yes** をクリックします。

Setup Type ページが開きます。


6. **SilkCentral Test Manager 2011 Custom Installation** オプション ボタンをクリックして、実行サーバーをインストールします。

デフォルトのインストール先は **Setup Type** ページの **Destination path** セクションに表示されます。デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します。

a) **Browse** をクリックします。

Choose Folder ダイアログ ボックスが開きます。

b) Test Manager をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **Setup Type** ページに戻ります。

 **注:** Test Manager は、ローカル ドライブにインストールしなければなりません。無効なインストール先を指定した場合には、エラー メッセージが表示されます。

7. **Next** をクリックします。

Select Features ページに、デフォルトの設定が一覧されます。カスタム インストール セットアップでは、デフォルトにより Test Manager パッケージに入っているすべてのコンポーネントがインストールされます。

8. **SilkCentral 実行サーバー** チェック ボックスにチェックし、他のすべてのチェック ボックスはチェックをはずします。

9. **Next** をクリックし、続行します。


Installation Options Summary ページに、選択した設定内容が一覧表示されます。

10 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います。

- 設定を変更するには、**Back** をクリックして、該当するページに戻ります。
- 必要な設定をし終わったら、**Next** をクリックして、インストール処理を開始します。

Setup Status ページの進捗バーにより、インストール処理の状況がわかります。完了すると、**InstallShield Wizard Complete** ページが開きます。

11 **Finish** をクリックしてインストールを完了させます。

 **注:** InstallShield ウィザードがインストール時にファイルの更新に失敗した場合 (例、システム ライブラリが Windows によってロックされていた場合)、またはそれ以外の理由で InstallShield ウィザードがシステムを再起動する必要があることを検出した場合、コンピュータを再起動するよう

にプロンプトが表示されます。この場合、コンピュータを再起動しないと、Test Manager へのアクセスに問題が発生する可能性があります。

サイレントモードで Windows 実行サーバーをインストールする

作業を開始する前に、Test Manager の実行可能ファイルをダウンロードするか、Test Manager の CD を CD ドライブに挿入します。

リモート SilkCentral 実行サーバーとして使用する POP (Point of Presence) それぞれに実行サーバーをインストールします。実行サーバーは、Test Manager テストをリモート コンピュータ上で実行します。

Windows 実行サーバーをサイレントモードでインストールするには、DOS シェルやバッチ ファイルから次のコマンドを入力します：WindowsExecServer-9.0.exe -s -c -f"<PATH_TO_EXTRACTED_FILES>" -a /s /f1"<PATH_TO_EXTRACTED_FILES>¥Install.iss" /v"/qn PROP_SILENTMODE=1 PROP_LANGUAGE=<LOCALE>"。

パラメータ *PROP_SILENTMODE* を 1 に設定して、実行サーバーをサイレントモードでインストールします。パラメータ *PROP_LANGUAGE* に対して、以下の値から適切なものを選択し、インストールする言語を選択します。

値	説明
EN	英語
DE	ドイツ語
JA	日本語

たとえば、次のコマンドで、実行サーバーは英語でインストールされます。


```
WindowsExecServer-9.0.exe -s -c -f"c:¥temp¥SCTM90" -a /s /f1"c:¥temp¥SCTM90¥Install.iss" /v"/qn PROP_SILENTMODE=1 PROP_LANGUAGE=EN"
```

Linux 実行サーバーをインストールする

このタスクは、Linux を使用する Test Manager ユーザー用です。

リモート SilkCentral 実行サーバーとして使用する POP (Point of Presence) それぞれに実行サーバーをインストールします。実行サーバーは、Test Manager テストをリモート コンピュータ上で実行します。

1. メニューで、**ヘルプ** > **ツール** > **Linux 実行サーバー** をクリックして、Linux 実行サーバー パッケージをダウンロードします。

 **注:** Linux 実行サーバー パッケージには、JRE は含まれていません。JRE バージョン 1.6 Update 10 以降がすでにインストールされているかどうか確認してください。最新の JRE は、<http://java.sun.com/javase/downloads> からダウンロードできます。

2. 次のコマンドを使用して、パッケージ ファイル tar.gz を展開します。

```
tar xzf <PackageFileName>.tar.gz
```


ここでの PackageFileName は、LinuxExecServer にビルドまたはバージョン番号が追加されたものが入ります。


3. 次のコマンドを使用して、パッケージ ファイルを展開したディレクトリに移動します。

```
cd LinuxExecServer
```

4. 次のコマンドを使用して、実行サーバーを開始します。

```
./startExecServer.sh
```

 **注:** キャッシュ情報とログ ファイルは、お使いのホーム ディレクトリの隠しフォルダ `~/.LinuxExecServer` に保存されています。ExecServer.log ログ ファイルは、Test Manager の Web インターフェイスからもアクセスすることが可能です。

 **注目:** 現在、Linux 実行サーバーに対してサポートされているソース管理システムは、Subversion および Apache Commons Virtual File System (VFS) です。

以下の技術で作成されたテストでは、Linux 実行サーバーでの実行はサポートされません。

- すべての SilkTest 技術
- SilkPerformer
- .NET Explorer
- TestPartner
- NUnit

これらのテストタイプは、Microsoft Windows オペレーティング システムのプラットフォーム特有のものです。

ログ ファイルを表示する

インストール処理中に、ログ ファイルが生成されます。インストール時にエラーが発生している場合や、Test Manager へのアクセスに問題があった場合などには、これらのログ ファイルに問題の原因を特定するために役立つ情報が記載されている可能性があります。

ファイルを表示するには、`¥Documents and Settings¥<ユーザー名>¥Local Settings¥Temp ¥SCTM100¥SilkCentralTMgr100.log` を開きます。

SilkCentral Test Manager 2011 へアップグレードする


Test Manager の前のバージョンからアップグレードする場合、SilkCentral Test Manager 2011 をインストールする前に、既存のプログラムを削除する必要があります。

1. 新しいバージョンへアップグレードを始める前に、Test Manager リポジトリまたはデータベースのバックアップ コピーを作成してください。
2. 現在インストールされているプログラムの /conf ディレクトリにある、XML ベースの設定ファイルのいずれかに変更を加えている場合、または、このディレクトリへ新しいファイルを追加している場合は、作業を続ける前に、この /conf ディレクトリのバックアップ コピーも作成してください。
3. Test Manager のフロントエンド サーバー、アプリケーション サーバー、およびチャート サーバーの、現在のプログラムを削除します。

前で挙げたコンポーネント群と同じコンピュータ上に、実行サーバーもインストールされている場合には、その実行サーバーのプログラムも同様に削除します。

4. 省略可能 : Microsoft SQL Server をデータベース サーバーとして使っており、Test Manager 2008 R2 SP1 より前のバージョンの Test Manager からアップグレードする場合、「スナップショット」アイソレーション レベルを有効にしなければなりません。スナップショット アイソレーションは、リーダ/ライター ロッキング シナリオを回避するのに使用されます。

a) データベース サーバーへ接続します。

 **注:** 設定を有効にするためには、データベース サーバー上での管理者権限をもっていなければなりません。

b) 次のコマンドを実行します : `ALTER DATABASE <your databasename> SET ALLOW_SNAPSHOT_ISOLATION ON.`

5. Test Manager のフロントエンド サーバー、アプリケーション サーバー、およびチャート サーバーをインストールします。

前で挙げたコンポーネント群と同じコンピュータ上に、実行サーバーもインストールしたい場合には、他のコンポーネントと一緒に実行サーバーもインストールします。

6. ブラウザのタイトルバーにホスト名を表示させる、といった詳細設定については、テキスト エディタもしくは XML エディタ上で、新しい設定ファイルを編集します。

XML ファイルを編集する前に、必ずフロントエンド サーバーのサービスが停止されていることをご確認ください。

データベースの設定は自動的に更新されます。設定ファイルにおける詳細設定についての詳細情報については、SilkCentral 管理モジュールのヘルプを参照してください。



注: 大きなデータベースの場合、データベース トランザクション ログのサイズが小さいと、アップグレード時にエラーが発生する可能性があります。エラーを回避するには、データベース トランザクション ログのサイズを 5 GB に設定します。

7. 設定ファイルを編集したら、フロントエンド サーバーを再起動してください。

サービスの停止と再起動に関する詳細情報については、SilkCentral 管理モジュールのヘルプを参照してください。

8. データベースに接続し、Web フロントエンド サーバーの適切な接続データを入力します。



注: 既存のデータベースは、接続した際に現行バージョンへと自動的に更新されます。この処理には、データベースのサイズによっては、数分から数時間までかかる場合があります。データベースを作成したユーザーのログオン認証を使用して、データベースに接続します。

9. 次のように、各実行サーバーをアップグレードできます。

- a) 現在インストールされている Test Manager の実行サーバーを削除します。
- b) Test Manager 2011 の実行サーバーをインストールします。
- c) 前のステップを、各実行サーバーをインストールするたびに繰り返します。

Test Manager のメンテナンス

Windows インストーラのメンテナンス機能には、次のオプションがあります。

Modify 指定されたパッケージの全機能の状態が抽出され、**Select Features** ダイアログ ボックスに表示されます。そこで選択対象を変更し、**Next** をクリックして変更を適用します。

Repair Windows インストーラは、指定されたパッケージの主要ファイルすべてを追跡します。主要ファイルは通常、実行可能ファイルか、重要な設定ファイルです。修復機能では、現行インストール プログラムのすべての主要ファイルが利用可能な状態であるか確認し、確認できないものについては、再インストールを行います。

Remove 削除機能は、指定されたソフトウェア パッケージ（すべてのファイル、およびレジストリ エントリを含む）をコンピュータから削除します。

1. Windows タスク バーから、**スタート > 設定 > コントロール パネル > プログラムの追加と削除** を選択します。

プログラムの追加と削除 ダイアログ ボックスが開きます。

2. Windows によって自動的にアンインストールできるソフトウェアのリストから、Test Manager をクリックします。

3. **変更と削除** をクリックします。

Test Manager 2011 Maintenance InstallShield ウィザードが開き、Test Manager(**Remove** オプションが選択されている)のメンテナンス オプションが表示されます。

4. 以下のオプションのいずれか 1 つをクリックし、**Next** をクリックして続行します。

- **Modify** : インストールの状態を変更する場合、**Select Features** ダイアログ ボックスが開き、すべての Test Manager の機能の現在のインストールの状態が表示されます。

必要に応じてインストールの状態を変更し、**Next** をクリックして、インストール内容を変更します。



注: 既存のインストールプログラムには、機能の追加のみ行うことができます。既存の機能を削除するには、**Remove** オプション ボタンをクリックします。

- **Repair** - インストールの修復を選択した場合、InstallShield ウィザードが現行のインストールプログラムを調べ、ファイルが紛失している場合にはそれを修復します。
- **Remove** : デフォルトの動作である削除では、Test Manager を削除することを確認するダイアログが開きます。

確認したら、**OK** をクリックします。InstallShield Wizard がコンピュータから製品を削除します。

操作が完了すると、**Maintenance Complete** ダイアログ ボックスが表示されます。

5. **Maintenance Complete** ダイアログ ボックスの指示に従い、**Finish** をクリックしてメンテナンス操作を完了させます。

すべての一時ファイルおよびオフライン ファイルを削除するには、Test Manager を削除した後に、コンピュータを再起動することを推奨します。

Test Manager のサイレント モード インストール

InstallShield では、ユーザーが対話的に入力しないで製品をインストールするためのオプションが用意されています。このオプションは、「サイレント モード インストール」と呼ばれており、Test Manager のインストールにも使用できます。この機能は特に、LAN やインターネット上で、リモート インストール ツールなどを使用してソフトウェアを配布する場合などに便利です。



注: このサイレント モード インストール オプションは、Test Manager の標準インストールと実行サーバー インストールのオプションに対してのみ利用可能です。カスタム インストール オプションは、ユーザーとのやり取りが必要となってくるため、サポートされていません。

サイレント モードでインストールする

サイレント モードでインストールして、ユーザー入力なしに Test Manager をインストールします。

1. インストール パッケージをサイレント モードで実行するようカスタマイズする前に、インストール先コンピュータのハード ドライブ上にあるディレクトリに、次のようにインストール ファイルを準備する必要があります。
 - Test Manager インストール CD からインストール パッケージを提供するには、CD の内容を、お使いのコンピュータのハード ドライブ上にある空のディレクトリにコピーします。
 - ダウンロードした Test Manager セットアップ パッケージ からインストール パッケージを提供するには、セットアップ パッケージの内容を、お使いのコンピュータのハード ドライブ上にある空のディレクトリに展開します。ダウンロードされたセットアップ パッケージには、パッケージをダブルクリックした際にこのステップを自動的に行うためのオプションが用意されています。
2. ファイルをコピーしたフォルダで、SetupLauncher.ini ファイルを探し、テキスト エディタでこれを開きます。
3. [STARTUP] セクションを探し、以下の例で示すように、モードを SILENTMODE に設定します。

```
[STARTUP]
;;;;; Settings for silent installations
;;; NORMALMODE .. Standard installation with GUI, SILENTMODE .. silent installation mode
MODE=SILENTMODE
```

4. セットアップによって Test Manager が完全インストールされるようにする場合は、SETUPTYPE に 1 を設定します。実行サーバーのみがインストールされるようにする場合は、SETUPTYPE に 3 を設定します。

```
SETUPTYPE=1
```

5. SetupLauncher.ini ファイルを保存します。
6. サイレント モードのセットアップを実行するには、DOS シェルやバッチ ファイルから次のコマンドを入力します。

- 32 ビット オペレーティング システムの場合：
`setup /s /f1"<prepared directory>%Install.iss"`
- 64 ビット オペレーティング システムの場合：
`setup /s /f1"<prepared directory>%Installx86.iss"`

次のコマンドは、32 ビットのオペレーティング システムの例です。

```
C:%temp%setup /s /f1"C:%temp%Install.iss"
```



注: インストールパッケージが再び GUI 上で実行されるようにするには、MODE を NORMALMODE にします。

サイレント モードでアンインストールする

サイレント モードでアンインストールして、ユーザー入力なしに Test Manager をアンインストールします。

1. Test Manager をサイレント モードでインストールしたコンピュータ上で、準備したサイレント モード ファイルがあるディレクトリを探します。
代替方法：標準の方法でインストールした Test Manager をサイレント モードで削除する場合には、インストール先コンピュータのハード ドライブ上にあるディレクトリに、インストール ファイルを用意します。
2. サイレント モードのアンインストール手順を実行するには、DOS シェルやバッチ ファイルから次のコマンドを入力します。

```
setup /s /f1"<prepared directory>%UnInstall.iss"
```


次のコマンドで例を示します。

```
C:%temp%setup /s /f1"C:%temp%UnInstall.iss"
```


Upload Manager をインストールする

このセクションでは、Upload Manager のインストールの手順について説明します。Upload Manager は、スクリーンキャプチャ、テキスト ファイル、テキスト スクリプトなどのファイルを、SilkCentral に直接アップロードするのに使用できるツールです。また、Upload Manager は、SilkCentral ファイル プールへファイルをアップロードする際にも使用します。このファイル プールのファイルは、Test Manager から利用することができます。


Issue Manager は Techsmith の SnagIt® (SnagIt) 画面キャプチャ ソフトウェアと統合されているので、Issue Manager データベース内にある既存の問題へ直接ファイルをアップロードしたり、新しい問題のベースとして、それらを使用することができます。SnagIt の詳細については、*Issue Manager* のヘルプを参照してください。

 **注:** Upload Manager をインストールするには、Windows 管理者権限を持っている必要があります。

Upload Manager の利用に関する詳細情報については、Test Manager のヘルプを参照してください。

Upload Manager をインストールする

Upload Manager をインストールして、Test Manager へ直接ファイルをアップロードできるようにします。

1. Test Manager で、**ヘルプ > ツール** を選択します。
2. **ダウンロード可能なクライアント ツール** の下にある、**Upload Manager** をクリックします。
選択したアプリケーションを実行したいかどうか尋ねる確認メッセージが表示されるかは、お使いのコンピュータにインストールされているオペレーティング システムやセキュリティの設定によって変わります。
3. 確認メッセージが開いた場合には、**Yes** をクリックして、現在の場所からアプリケーションを実行していいかどうかを承認します。
ウィザードは自動的にインストーラ パッケージからファイルを抽出し、インストールの準備をします。
InstallShield Wizard Welcome ページが開きます。ウィザードのガイドに従い、セットアップ手順を進めます。
 **注:** このセットアップではいつでも、**Back** をクリックすれば前のステップに戻り、**Cancel** をクリックすればインストールのプロセスを終了できます。
4. 使用する言語を選択し、**Next** をクリックします。
Customer Information ページが開きます。
5. ユーザー情報および会社情報を指定し、適切なオプション ボタンをクリックして、製品を現在のアカウントのみに対してインストールするのか、すべてのユーザーに対してインストールするのか指定します。
6. **Next** をクリックし、続行します。
Choose Destination Location ページが表示されます。
7. **Next** をクリックして、製品をデフォルトのインストール フォルダに作成およびインストールするか、**Browse** をクリックして別の場所を選択します。
戻って設定を変更するには、**Back** をクリックします。
Installation options summary ダイアログ ボックスに、このインストールに対して指定された設定内容の概要が表示されます。
8. インストールの設定を確認し、**Next** をクリックしてファイルのインストールを開始します。
戻って設定を変更するには、**Back** をクリックします。

Setup Status ページにインストールの進捗状況が表示されます。インストールが完了すると、**InstallShield Wizard Complete** ページが開きます。

9. **Finish** をクリックします。

Manual Testing Client をインストールする

Test Manager の Manual Testing Client を利用することにより、テスト担当者はインターネット接続しなくても自分のテストを管理し、その結果を追跡することができます。Manual Testing Client は、Test Manager が提供する主な手動テスト実行機能を、Windows ベースのクライアント ツールの形で提供します。

インストールの事前要件


Manual Testing Client をインストールするには、お使いのコンピュータがクライアント側のシステム要件を満たしている必要があります。詳細については、『Test Manager リリース ノート』の「システム要件と事前要件」を参照してください。

お使いのコンピュータが次のソフトウェア要件を満たしている必要があります。

Java 5.0	1.5.0 以降では、Manual Testing Client WebStart でサポートされるのは、32 ビットのみです。
オペレーティング システム	『Test Manager リリース ノート』の「システム要件と事前要件」を参照してください。

Manual Testing Client をインストールする

Manual Testing Client をインストールし、インターネット接続を使用せずに自分のテストを管理して、その結果を追跡します。

1. Test Manager で、**ヘルプ > ツール** を選択します。
2. **ダウンロード可能なクライアント ツール** の下にある、**Manual Testing Client** をクリックします。
選択したアプリケーションを実行したいかどうか尋ねる確認メッセージが表示されるかは、お使いのコンピュータにインストールされているオペレーティング システムやセキュリティの設定によって変わります。
3. 確認メッセージが開いた場合には、**Yes** をクリックして、現在の場所からアプリケーションを実行していいかどうかを承認します。
ウィザードは自動的にインストーラ パッケージからファイルを抽出し、インストールの準備をします。
InstallShield Wizard Welcome ページが開きます。ウィザードのガイドに従い、セットアップ手順を進めます。
 **注:** このセットアップではいつでも、**Back** をクリックすれば前のステップに戻り、**Cancel** をクリックすればインストールのプロセスを終了できます。
4. **Next** をクリックし、続行します。
Customer Information ページが開きます。
5. ユーザー情報および会社情報を指定し、適切なオプション ボタンをクリックして、製品を現在のアカウントのみに対してインストールするのか、すべてのユーザーに対してインストールするのか指定します。
6. **Next** をクリックし、続行します。
Choose Destination Location ページが表示されます。
7. **Next** をクリックして、製品をデフォルトのインストール フォルダに作成およびインストールするか、**Browse** をクリックして別の場所を選択します。
Start Copying Files ページが開きます。
8. インストールの設定を確認し、**Next** をクリックしてファイルのインストールを開始します。


戻って設定を変更するには、**Back** をクリックします。

Setup Status ページにインストールの進捗状況が表示されます。インストールが完了すると、**InstallShield Wizard Complete** ページが開きます。

9. Finish をクリックします。


Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 をインストールする

Microsoft® SQL Server 2008 Express SP1 セットアップ プログラムは、Test Manager がリポジトリとして使用することができる Microsoft® SQL Server 2008 Express SP1 をインストールします。Test Manager のセットアップの後、基本的に設定内容を 2~3、入力する必要があります。

 **注:** Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 は、最大サイズ 4 GB までに制限されており、デモンストレーションまたはテスト目的でのみ、使用することができます。その他の使用目的の場合は、Microsoft SQL Server または Oracle をインストールしてください。サポートされているバージョンなどの詳細については、『Test Manager リリース ノート』を参照してください。

Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 をインストールする

デモンストレーションもしくはテスト目的でリポジトリとして使用するために、Microsoft® SQL Server 2008 Express SP1 をインストールします。

 **注:** SQL Server 2008 Express SP1 をインストールするには、そのコンピュータ上で管理者権限を持っている必要があります。Test Manager の評価版をインストール中に、SQL Server 2008 Express SP1 のインストールを選択できます。

1. [Microsoft ダウンロード ページ](#) から、Microsoft Windows Installer 4.5 をダウンロードし、インストールします。
2. [Microsoft ダウンロード ページ](#) から、Microsoft .Net Framework 3.5 Service Pack 1 をダウンロードし、インストールします。
3. [Microsoft ダウンロード ページ](#) から、Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 をダウンロードします。
4. お使いのコンピュータが Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 をインストールするための要件を満たしているかどうか確認してください。要件に関する情報については、製品のヘルプを参照してください。
5. sql-2008-express.ini 設定ファイルを使用して、Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 を設定します。「[Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 を設定する](#)」を参照してください。
6. コマンドライン プロンプトで、次のコマンドを入力します : C:¥SQLEXP_x86_ENU.exe / CONFIGURATIONFILE=C:¥sql-2008-express.ini /Q。
C:¥SQLEXP_x86_ENU.exe を Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 実行可能ファイルの名前とパスで、C:¥sql-2008-express.ini をお使いのシステムの Microsoft SQL Server 2008 Express 設定ファイルの名前とパスで置き換えます。
すべてを適切に設定できたら、Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 のインストール手順を開始します。
7. インストール ログファイルをチェックして、Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 のインストールが正常に終わったかを確認します。ログファイルは、Summary.txt という名前で、ProgramFiles ¥Microsoft SQL Server¥100¥Setup Bootstrap¥Log フォルダにあります。


Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 を設定する

sql-2008-express.ini 設定ファイルを使用して、Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 を設定します。

次のコードは、設定ファイルのサンプルです。

```
[SQLSERVER2008]
ACTION="Install"
FEATURES=SQLEngine
TCPENABLED="1"
INSTANCENAME="SQLEXPRESS"
SECURITYMODE="SQL"
SAPWD=Password
SQLSVCACCOUNT=Administrator
SQLSVCPASSWORD=Password
SQLSYSADMINACCOUNTS=Administrator
```

お使いの Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 の設定にこのコードを使用するには：

1. エディタを使用して、空のテキスト ファイルにコードをコピーします。
2. ACTION の値を変更して、セットアップ ワークフローを指定します。
次の値から選択できます。
 - INSTALL
 - UNINSTALL
 - UPGRADE
3. SAPWD の値を変更して、SQL Server の管理者アカウントのパスワードを指定します。このパスワードは、SECURITYMODE が SQL に設定されている場合に必要となります。
 **注:** デフォルトのパスワードは、SilkCentral12!34 です。
4. SQLSVCACCOUNT の値を変更して、SQL Server のサービス アカウントのユーザー名を指定します。
5. SQLSVCPASSWORD の値を変更して、SQL Server のサービス アカウントのパスワードを指定します。
6. SQLSYSADMINACCOUNTS の値を変更して、SQL Server システム管理者アカウントとして割り当てたい Windows のアカウントを指定します。
7. このファイルを sql-2008-express.ini として、Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 インストールパッケージがあるフォルダに保存します。

他の設定を変更する必要はありません。

SilkCentral データベースを設定する


このセクションでは、Test Manager によってサポートされているデータベース システムの概要を提供すると共に、SilkCentral データベースを作成し、接続する方法についても説明します。

リポジトリは、システム管理者のみが設定できます。ユーザー ロールに関するさらなる情報については、『SilkCentral 管理モジュール ヘルプ』を参照してください。

リレーショナルデータベース管理システム (RDBMS) をインストール、設定し、Test Manager をインストールしたら、1 つまたは複数のリポジトリを作成したり、既存のリポジトリに接続することができます。リポジトリでの作業に関するさらなる情報については、『SilkCentral 管理モジュール ヘルプ』を参照してください。

リレーショナルデータベース管理システムを選択する

Oracle または Microsoft SQL Server を、各リレーショナルデータベース管理システム (RDBMS) のドキュメントの指示に従い、インストールして設定します。

 **注:** Test Manager でサポートされているデータベースの詳細については、『SilkCentral 管理モジュール ヘルプ』を参照してください。

次の表は、各 RDBMS とプラットフォーム間の関係を表しています。


この RDBMS は...	このプラットフォーム/サーバー上で稼動...
Microsoft SQL Server 2005、Microsoft SQL Server 2008 R2、Microsoft SQL Server 2008 Express SP1	Windows
Oracle 10g (バージョン 10.2.0.4)	Windows、Unix、Linux
Oracle 11g (バージョン 11.2.0.1)	Unix、Linux

 **注:**

Microsoft SQL Server	Microsoft SQL Server をインストールすると、Test Manager をインストールできるようになります。
Microsoft SQL Server 2008 R2	Test Manager では、Microsoft SQL Server 2008 R2 サーバーのみサポートされており、大文字/小文字関係なくセットアップされます。
Microsoft SQL Server 2008 Express SP1	Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 は、完全なデータベース サーバー インストールと比較して、機能が制限されているため、運用環境で使用することはできません。
Oracle	Test Manager では、Oracle 10g バージョン 10.1.0.2 を使用しないでください。
Oracle ネイティブ ドライバを使用した Oracle	SilkCentral と Oracle ソフトウェアを別のマシン上にインストールすることを推奨します。

データベース

SilkCentral リポジトリを作成したり、このリポジトリにアクセスする場合は、どのタイプのデータベース システムを使用するかを指定します。

 **注:** Oracle はデータベースを作成するのではなく、特定のユーザー名に割り当てられるスキーマを作成します。このため、データベース名は、Oracle のリポジトリに割り当てられるのではなく、代わりにユーザー名に割り当てられます。Test Manager は、このようなユーザー名を、このようなユーザー名をデータベース名として参照します。

以下の表では、各データベースタイプに対する要件が記載されています。

RDBMS	用意するもの
Oracle 10g (バージョン 10.2.0.4)、Oracle 11g (バージョン 11.2.0.1)	<ul style="list-style-type: none"> データおよびインデックス用に最低 500 MB サイズの Oracle 表領域。 サーバーのホスト名とポート番号。デフォルトのポート番号は 1521 です。 Oracle のインスタンス名 (\$ORACLE_SID)。お使いの Oracle インスタンスの名前については、Oracle の管理者にお問い合わせください。 Test Manager データベース ユーザーの名前とパスワード。ここでのユーザーは、十分な割り当て領域と権限を持っている必要があります。これについて手助けが必要な場合には、必要に応じて Oracle の管理者にお問い合わせください。
Microsoft SQL Server 2005、Microsoft SQL Server 2008 R2、Microsoft SQL Server 2008 Express SP1	<ul style="list-style-type: none"> サーバーのホスト名とポート番号。 MS SQL Server のシステムユーザー名とパスワード。 Test Manager リポジトリの名前。 Test Manager データベース ユーザーの名前とパスワード。

データベース ユーザーの権限


セキュリティ リスク上、SilkCentral リポジトリの維持管理にデータベースの管理者ユーザーを利用することは、推奨していません。このトピックでは、次のように、特定のタスクで使用することのできるデータベース ロールについて一覧表示します：

Microsoft SQL Server 2005、Microsoft SQL Server 2008 R2、または Microsoft SQL Server 2008 Express SP1

Microsoft SQL Server 2005、Microsoft SQL Server 2008 R2、または Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 を SilkCentral の DBMS とする場合、SilkCentral リポジトリに対して次のデータベース ユーザー権限を設定します。

- db_owner
- db_ddladmin

これら 2 つのロールのいずれも、リポジトリの表の作成や設定、事前に作成されているデータベースでの作業、ソフトウェアのインストールや更新などが許可されています。


 **注:** SilkCentral データベース ユーザーには、この両権限が必要となります。さもなければ、エラーが発生します。


Oracle 10g (バージョン 10.2.0.4)、Oracle 11g (バージョン 11.2.0.1)

Oracle 10g (バージョン 10.2.0.4) または Oracle 11g (バージョン 11.2.0.1) を SilkCentral の DBMS とする場合、SilkCentral リポジトリに対して次の Oracle データベース ユーザー権限を設定し、作業します。

- CREATE SESSION
- CREATE PROCEDURE
- CREATE SEQUENCE
- CREATE TABLE
- CREATE TRIGGER

- CREATE VIEW

 **注:** SilkCentral データベース ユーザーには、前出のすべての権限が必要となります。さもなければ、エラーが発生します。

 **注:** ここでの Oracle ユーザーは、SilkCentral で作業するために、十分な割り当て領域を持っている必要があります。

SilkCentral に対して Oracle DBMS を設定している場合には、Oracle の環境が次の要件を満たしているかどうか確認してください：

- 最低 2GB の一時表領域が利用可能であること。
- 一時表領域のサイズを処理するために十分なディスク領域があること。

SilkCentral データベースへ接続する

Test Manager は、SilkTest Classic や SilkPerformer と密に統合された、スケジュール管理や障害追跡機能を提供する、総合テスト管理ソリューションです。

Web ブラウザ、または Windows メニューから、Test Manager にアクセスすることができます。両方の方法とも、フロントエンド サーバーおよびアプリケーション サーバーのホストとなっているコンピュータ上でのみ利用可能です。Web ブラウザから Test Manager へアクセスするには、デフォルト URL `http://<コンピュータ名>/login` を使用します。Windows メニューから Test Manager にアクセスするには、**スタート > すべてのプログラム > Silk > SilkCentral > Test Manager 2011 > Test Manager Home Page** を選択します。

また、Test Manager コンポーネントを、SilkTest Classic 上の組み込みブラウザ ウィンドウ内に起動することもできます。

Test Manager や Issue Manager を起動するには、SilkCentral データベースに接続する必要があります。

「データベース」と「リポジトリ」という用語は同じ意味で使われることがありますが、一般にリポジトリは、データの集まりが一元的に保存され管理される場所と定義されています。SilkCentral の概念モデルは、Issue Manager および Test Manager のデータが格納されるデータ リポジトリの概念モデルです。

SilkCentral リポジトリの新規作成に関する詳細については、SilkCentral 管理モジュールのヘルプを参照してください。

SilkCentral データベースから切断する

新しい SilkCentral データベースに接続するには、まず現在のデータベースから切断しなければなりません。

1. Web ブラウザで、自分の SilkCentral サイトを参照します。
デフォルト URL は、`http://<コンピュータ名>/login` です。
2. ログオンします。
ユーザー名とパスワードのデフォルト値は両方とも `admin` です。
3. メニューで **管理 > システム設定 > データベース** をクリックします。
データベース ページが開きます。
4. **切断** をクリックし、現在のデータベースから切断します。

既存のデータベースへ接続する

現在、SilkCentral データベースに接続している場合には、新しいデータベースを作成する前に、現在のデータベースから切断してください。

1. Web ブラウザで、自分の SilkCentral サイトを参照します。

デフォルト URL は、http://<コンピュータ名>/login です。

2. ログオンします。

ユーザー名とパスワードのデフォルト値は両方とも admin です。

3. メニューで **管理 > システム設定 > データベース** をクリックします。



注: SilkCentral データベースに接続したことがある場合には、**データベース** ページに、以前に接続されたデータベースの情報が表示されます。デフォルト値をそのまま利用して前のデータベースに再度接続したり、別の既存データベースの情報を入力して接続することができます。

4. データベースの情報を指定または確認し、**接続** をクリックします。



注: Test Manager から古いデータベースに接続すると、Test Manager は自動的にアップグレードを行います。このアップグレードには、データベースのサイズによっては、数時間かかる場合があります。実行サーバーのバージョンが不適切な古いバージョンであっても、それが SilkCentral Test Manager 2009 SP1 よりも後である場合、その実行サーバーは最新の Test Manager バージョンに自動的にアップグレードされます。実行サーバーのリストの **情報** 列に、更新に関するメッセージが Test Manager によって表示されます。アップグレード手順が完了しない限り、そのアップグレード中の実行サーバーは使用されません。

データベース接続が確立されると、SilkCentral ログオン ページが開きます。

5. SilkCentral へログオンします。

ユーザー名とパスワードのデフォルト値は両方とも admin です。

SilkCentral 入門

このセクションでは、SilkCentral での作業を開始する方法について説明します。

Test Manager 入門

Test Manager をインストールし、SilkCentral データベースへ接続したら、Test Manager で管理タスクを開始できます。

Issue Manager 入門

Issue Manager リポジトリにアクセスできるようになるには、Issue Manager に対してプロジェクトを初期化する必要があります。

1. Web ブラウザで、自分の SilkCentral サイトを参照します。

デフォルト URL は、http://<コンピュータ名>/login です。

2. ログオンします。

ユーザー名とパスワードのデフォルト値は両方とも admin です。

3. メニューで **問題 > プロジェクト リスト** をクリックします。

利用可能なプロジェクトの一覧が表示されます。

4. 問題を管理するプロジェクトの **アクション** 列で、**リポジトリ設定の初期化** アイコンをクリックします。

5. 画面上の指示に従います。

その他の詳細については、『SilkCentral Issue Manager 管理ガイド』を参照してください。

SilkCentral を管理する

Test Manager をインストールした後、SilkCentral データベースに接続し、Issue Manager のプロジェクトを初期化したら、SilkCentral で作業するために次のアクションを行います：

- システム設定の調整
- ユーザーとプロジェクトの作成

- 場所の設定
- 製品、コンポーネント、プラットフォーム、リリース、ビルドの作成
- テスト構造の作成
- Test Manager 要件の設定
- テストの作成
- テストの計画
- 管理されているテストの実行
- 問題の追跡と管理
- 結果のレポート

リストされたアクションの詳細については、SilkCentral 管理モジュール ヘルプ、Test Manager ヘルプ、SilkTest Classic ヘルプ、および SilkPerformer ヘルプを参照してください。

索引

D

DBMS 31

I

IIS 14

ISAPI Web サーバー 14

L

Linux 実行サーバー 20

M

Manual Testing Client 27

Microsoft SQL Server 2008 Express
設定する 30

MS SQL Server 31

MSDE 31

O

Oracle

空きディスク領域 32

一時表領域のサイズ 32

要件 31

R

RDBMS 31

S

SilkCentral 34

SilkMeter

アンインストールする 8

インストールする 8

構成を変更する 9

接続のテスト 10

ライセンス サーバー上にインストールする 8

ライセンス サーバーを変更する 9

SQL 31

T

TEMP 環境変数 11

U

Upload Manager 25

W

Windows インストーラ サービス 22

あ

空きディスク領域 32

新しいバージョン 21

アップグレード 21

アプリケーション サーバー 14

い

一時表領域のサイズ 32

インストール

アンインストールする 22

メンテナンス 22

インストール CD 6

インストールした機能を削除する 22

インストールした機能を修復する 22

インストールした機能を変更する 22

インストールする

Linux 実行サーバー 20

Manual Testing Client 27

Microsoft SQL Server 2008 SP1 29

Test Manager 14

Upload Manager 25

概要 4

サイレントモード 23

実行サーバー 18

スタンドアロン 11

手順の概要 11

標準 11

分散 14

インストールの事前要件

Manual Testing Client 27

か

概要

Manual Testing Client をインストールする 27

SQL Server 2008 Express SP1 をインストールする
29

Upload Manager をインストールする 25

インストールする 4

さ

サイレントモード

アンインストールする 24

インストールする 23

作業の開始

Issue Manager 34

SilkCentral 34

Test Manager 34

概要 34

し

実行可能ファイルのダウンロード 11

実行サーバー

サイレントモード 20

実行サーバーをインストールする

サイレントモード 20

せ

設定する
データベース 31
リポジトリ 31

そ

ソフトウェア要件
Manual Testing Client 27

ち

チャート サーバー 14

て

データベース
作成する 33
接続する 33
切断する 33
設定する 31
タイプ 31
必要な情報 31
ユーザーの権限 32
ロール 32
データベースから切断する 33
データベースへ接続する 33
データベースを作成する 33

な

内容
インストール CD 6
インストール パッケージ 6

に

入門
Issue Manager 34
Test Manager 34

は

ハードウェア要件
Manual Testing Client 27

ひ

必要なアクション 34

ふ

フロントエンド サーバー 14
分散インストール 14

ほ

ホスト ID 7

め

メンテナンス 22

ら

ライセンス管理
概要 7
テスト接続 10
ライセンス サーバー
構成を変更する 9
要件 8
ライセンス ポリシー 7
ライセンス ポリシーの生成 7

り

リポジトリ 31

ろ

ログ ファイル 21
ログ ファイルを表示する 21